

里海ライフガードのネットワークを創ろう！

～ 一緒に海岸清掃をしよう！ ～

海 事 部

◇ 自己保全の技術を学び教え合うネットワーク

プレジャーボートを安全に利用してもらうための小型船舶操縦者遵守事項は、平成 15 年に創設されてから 7 年目となりました。その内容は、①酒酔い等操縦の禁止、②危険操縦の禁止、③免許者の自己操縦、④救命胴衣の着用、⑤発航前点検の実施、⑥適切な見張り、⑦事故時の対応、の 7 つのルールを守ることです。そのため当部でも、海上保安部、警察、運輸支局、PW（パーソナルウォータークラフト）安全協会《PWSA》等と一緒に遵守パトロールや周知活動を行っています。

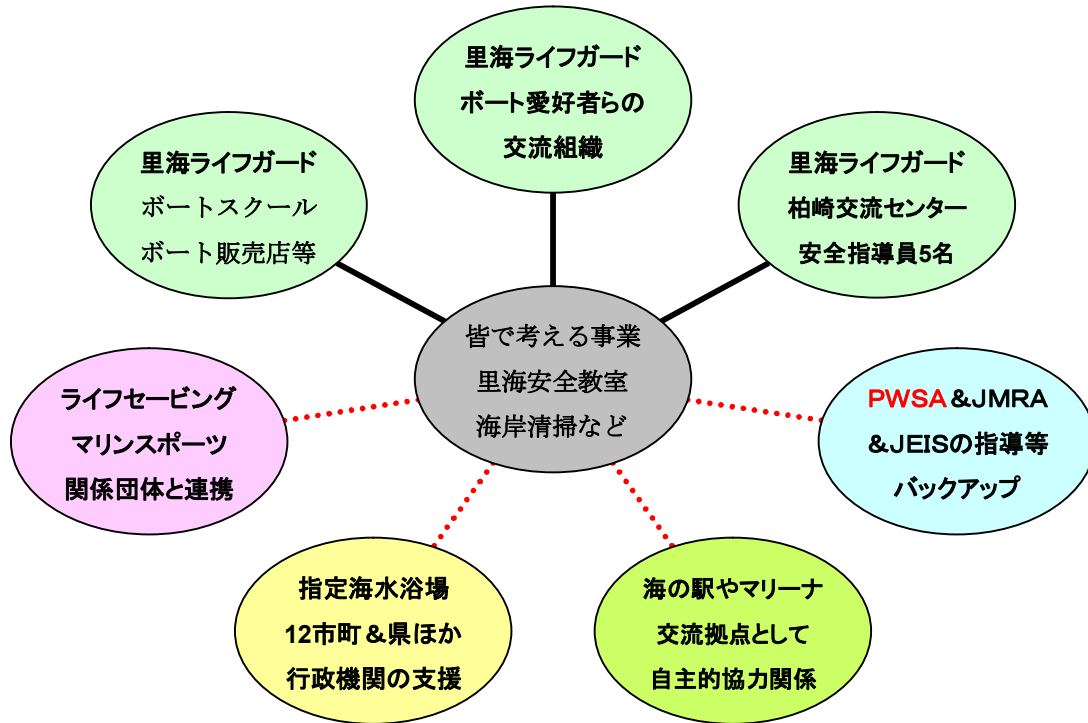


このような中、新潟県では昨年 6 月 13 日に転覆事故が連続発生し 6 名の方が亡くなりました。また、富山県でも 6 月 15 日に 1 件の死亡事故が発生しています。救命胴衣の着用については海洋レジャーに繰り出す全員に強制していないため、啓発を主とするパトロール活動には限界があります。（救命胴衣の有効性から義務化の拡大を望む声もあります）

また、マリンレジャーのトラブル（苦情）で一番多いのは水上オートバイです。水上オートバイが悪者になったら、「遊泳区域を明確にすれば安全」と主張しても通りません。兵庫県等では水難防止条例でプレジャーボートやバギーカー等を海水浴場には入れないようにしました。健全な海洋レジャーの振興を図るにはライダー自身のモチベーションでイメージアップを図っていく必要があると思っています。

そこで、当課が提案する「里海ライフガード」は、地域のライフセーバーと水上オートバイの愛好者らが連携し、ライフジャケットの着用方法やセルフレスキューの泳法をマスターするなど自己保全の技術を学び、実体験を通して市民にも教える「ボランティア里海安全教室」等を想定しています。

【図1】 里海ライフガードのイメージ(関係機関によるゆるやかなネットワークを構築)



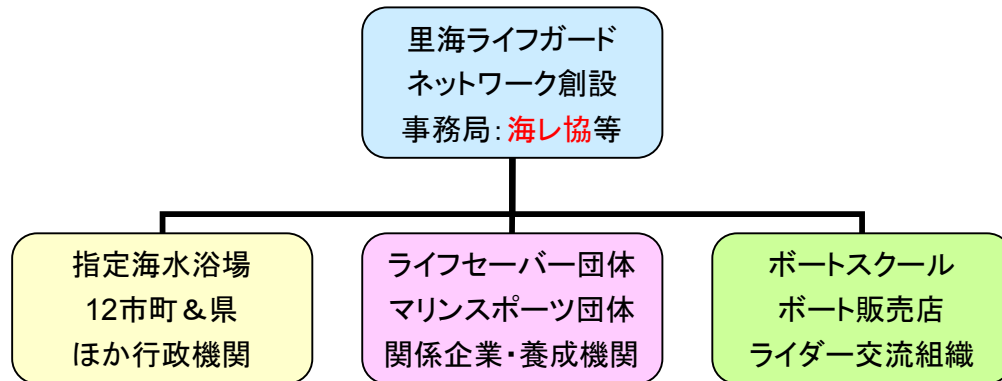
この組織はボランティアシップを期待するものですから、役所の主導で行えば押し付けになります。自主性を促すためには一緒に汗をかくしかありません。部内の合意を得て始めることとしました。

まず、「海の駅」所管課の協力を得て運営主体にアンケート調査で意向確認をしました。里海ライフガードと市民との交流拠点として、自主的に協力してくれそうな海の駅やマリーナとは連携できると考えています。

さらに昨年12月、第9管区海上保安本部警備救難部、交通部、新潟海上保安部と意見交換をし、水上バイクのライダーが組織化することには賛成いただき、彼らが安全活動をする場合は指導・協力は可能との意見もいただきました。

財団法人 日本海洋レジャー安全・振興協会（略称「海レ協《JMRA》」）信越事務所事務連絡会に出席し、「里海ライフガード・ネットワーク構想」等を提案し協力を求めました。その後、海レ協《JMRA》が事務局となって関係者を招集してくれましたので、構想について概ね賛同するとの意見を聞くことができました。

【図2】里海ライフガード・ネットワーク設立の準備会(1年程度の協議で事業内容を決める)



◇ 海岸一斉清掃から始めよう

平成 21 年に日本海事センターが海に関する国民意識調査を実施しました。日本人の 7 割強の人が「海が好き」と答えています。また、海に関して必要な取り組み（複数回答）では、海の安全確保 78.6%、船舶の安全航行 62.0%、海洋環境保全 56.8%など、安全や環境に関心が高く、反面、海洋レジャーの推進 17.5%、海に関するイベント企画 13.9%と低いです。しかし、若年層（10～30代）とシニア層（40～60代）では大きな差があり、海洋レジャーは若年層＝21.8%（シニア＝13.5%）、イベントは若年層＝19.5%（シニア＝9.3%）と若い人の関心が高くなっています。



類似の調査は平成 21 年 1 月にインターネットモニター（当運輸局）「海事関係事項に関する意識調査」が行われ、調査結果は国交省のホームページに公開されています。里海で関わりたい活動では「浜辺のクリーンアップ」（53.7%）が一番多いと分かりました。

「海洋レジャーの推進」や「イベントの企画」を考える場合、①10代～30代をターゲットに、②「海岸のクリーンアップ」（環境）と、③「里海ライフガード・ネットワーク」（安全）を同時に推進すると効果が期待できると思います。マッチングを図る政策ですが、戦略的に考えていく必要があると考えています。

2月16日、「海岸一斉清掃」について新潟県産業労働観光部の坂巻観光局長（国土交通省から出向）に協力要請をしました。局長からは「どうせ海岸清掃はみんなやっているの
で海水浴場のある12市町全部が参加するかは別として、声かけできると思う。海レ協が事務局を引き受けるなら歓迎。早めに日程調整する必要がある」との返事を頂きました。

最後に、海岸清掃についての事例を一つ紹介します。

海レ協《JMRA》主催の「里海ライフガード・ネットワーク構想の集い」に出席したマリスクラブ柏崎の原代表からの情報。「昨年、柏崎でラブ・ジ・アースミーティングが開催されました。そういったことが水上オートバイでもできないでしょうか…」というものです。

このラブ・ジ・アースとはバイク乗りによる地球愛護活動です。普段バイクに乗ることで少なからず環境にインパクトを与えているという意識から自然に恩返しをしたいとの想いを込めて、ラブ・ジ・アース実行委員会（任意団体）が2002年から取り組んでいます。

これまでに静岡、茨城等で開催し、新潟は柏崎みなとまち海浜公園で3回実施しています。バイク500台が集まり2時間で18トンのゴミが収集されました。

水上オートバイの愛好者のみなさんからも、こういった活動を促す声が上がりましたので、海レ協《JMRA》信越事務所が事務局となって関係者の皆さんと相談しています。実施が決まったら、私たちもこれに参加しようではありませんか。